

令和6年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立岐阜聾学校

学校番号	102
------	-----

自己評価

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聴覚に障がいのある幼児児童生徒一人一人の可能性を最大限に伸ばし、自立と社会参加ができるよう、「生きる力」を育む。</li> <li>・コミュニケーション能力を身に付け、主体的に学び、判断・行動し、問題を解決できる力を育成する。</li> <li>・健やかな体と自他を尊重する豊かな心を育成する。</li> </ul>
--------	--

評価する領域・分野	学校経営方針、各部の教育活動・学習指導
現状及びアンケートの結果分析等	<p>学校の教育活動に関するアンケート結果より、今年度、項目を一部見直して評価を頂いたが、保護者の理解と協力を得て教育実践が行われていると評価された。学校の教育活動の様子を学級通信や学校だより、ホームページで頻繁にお伝えすることで、学校と保護者が連携して幼児児童生徒への支援ができていますと評価されました。また特色ある学校教育活動として、幼稚部から高等部専攻科まで学校行事や校内の交流により、部を越えてつながり、新たな学び合いの機会が生まれたことが、高評価の要因だった。</p> <p>&lt;課題について&gt;</p> <p>課題として「わからない」が多い学校における進路指導の状況においては、後期、個々に応じた対応だけでなく、年齢や学年に応じたキャリア教育の状況をしっかりと伝え、理解・協力を得られるよう取り組んだ。</p> <p>部活動の大会・作品展への出展などへの取組については、幼児児童生徒が意欲的に参加できるように、積極的な情報発信や目標設定などを行い、それらの取組の様子や実績などもHPに掲載し、理解につなげた。</p> <p>今後も、外部の行事などの情報提供も行き、積極的な社会参加に取り組んでいく。</p>
今年度の具体的かつ明確な重点目標 (学校として取り組む課題)	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 個に応じた教育を推進するために、聴覚障がいに係る専門性の向上に努める。</li> <li>② 幼児児童生徒が主体的、協働的に学びを深められる場の充実に努める。</li> <li>③ 開かれた学校として、日々の教育活動の様子や児童生徒からの情報を積極的に発信</li> </ol>
学校全体として取り組む課題	具体的な取り組み
① 個に応じた教育の推進 (今だけではなく、卒業後も視野に入れた指導・支援)	<p>◎幼児児童生徒の教育的ニーズの把握・個別の教育支援計画への反映</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・J. coss・読書力診断テスト結果から、児童生徒の言語力の把握と分析（大学・STとの連携）</li> <li>・幼児児童生徒の障がい特性に応じた対応（OT・PTとの連携）（年間14回 内9回実施）</li> </ul> <p>◎職員の専門性の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研修（聴覚障害に関する研修）への参加（集団による学び）</li> <li>・外部講師を招いての授業改善・指導力の向上（直接指導による学び）</li> <li>・授業交流月間・参観、手話研修会（職員同士による学び）</li> </ul>
<p>&lt;成果&gt;・個別懇談での教育的ニーズの把握と個別の教育支援計画への反映</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員研修（8月3回・10月1回）、手話研修会、各部での授業研究の実践</li> </ul>	

② 幼児児童生徒同士の学びの場の充実 (4部を生かした取組み)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友だち会、生徒会からの発信</li> <li>・幼稚部・小学部・中学部・高等部の活動や行事の繋がりや機会を設ける</li> <li>・地域交流・校種間交流を通じた学び</li> </ul>	
<p>&lt;成果&gt;・行事の繋がりとして、運動会等にて、共通テーマでの実施と得点の引継ぎや応援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学部高等部生徒会が中心となる人権教育の取組</li> <li>・生徒会からの要望書</li> </ul>		
③ 開かれた学校づくり (教育活動がわかる情報の発信)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育活動の発信 (HPの充実・通信の発行)</li> <li>・保護者や地域の方との交流の実施 (校長と話そう会・学校見学・地域の人材・社会人材の活用)</li> </ul>	
<p>&lt;成果&gt;・HPを活用した情報発信、各部の取り組みの情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校間交流 (加納幼稚園・加納小学校・岐阜大学教育学部附属小中学校・加納中学校・岐阜聖徳学園高校 (12月)・東海地区聾学校)</li> <li>・委員会活動でフラワーブラボーコンクール参加、加納公民館への花の贈呈</li> <li>・高等部の老人ホームとの交流</li> <li>・INDONESIAN ART FAIR インドネシア留学生との交流会への参加 (東京)</li> <li>・作品展への出品 (加納東市民文化祭 (11月))、交通安全運動、あいさつ運動</li> </ul>		
評価の視点 (A:十分達成できた B:おおむね達成できた C:やや不十分 D:不十分)	評価	
① 学校教育目標に基づいた教育活動を計画・実施できたか。	A B C D	
② 特色ある教育活動を展開できたか。	A B C D	
③ 積極的な情報発信により、開かれた学校づくりが推進できたか。	A B C D	
成果・課題	総合評価	
<p>○各部ごとだけでなく、部を越えた幼児児童生徒同士の学びの場を作ることで、幼児児童生徒の発達段階や個々の実態に応じた教育活動を実施し、指導・支援について保護者の協力と理解を得ることができた。</p> <p>○学校生活において体験的な要素を多く取り入れた授業や行事を実施し深い学びにつなげ、授業参観、保護者懇談、地域への啓発活動、HPなどで教育活動の様子を発信することができた。</p> <p>○いじめや体罰を許さない学校の方針を、生徒が感じ取ることができている。</p> <p>▲保護者とのより密な連携、情報提供、質の高い教育活動、専門性を備えた教職員へのニーズが高いことがうかがえることから、今後も学校の様子がよく伝わる教育活動の発信に取り組むとともに、聴覚障がい教育の専門性について研修を深め、各部の状況に応じ改善に向けた取組を考えていきたい。</p> <p>▲特色ある学校づくりについて、保護者、関係者、地域の方の意見を広く取り入れる機会を工夫し、推進していく必要がある。</p>		A B C D
来年度に向けての改善方策案	聾学校教師として、コミュニケーション力、言語力向上のための指導力等の専門的な知識や技術の向上のため研修の推進を図る。	

学校関係者評価 (令和7年1月31日実施)

意見・要望・評価等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・志望する大学での情報保障の状況を把握し、志望者と大学双方へのさらなるサポートが必要。生徒には、引き続き自分の聞こえについて説明し自ら情報保障を求めていく力を付けていく必要がある。</li> <li>・進路指導では、農業、自営業等も含め、就労先の選択肢を広げていけるとよい。</li> <li>・SNSで姿を現さずに誹謗中傷するなど、いじめの傾向が変わってきている。情報量が少なくなりがちな聾学校ならではの情報教育等、新しい問題に向けた対応策が必要である。</li> <li>・聾学校の外でも正しく伝わるように、正しい手話を身に付けてほしい。</li> <li>・生徒会の挨拶運動が日常生活にもつながるように、さらなる工夫が必要である。</li> </ul>
-----------	--